

中国、次世代人工知能（AI）発展計画が始動

◆「次世代AI発展計画」の実現で科学技術強国へ

2017年10月に開催された中国共産党第19回大会後の11月に、以下の4つのプロジェクトが始動した。①百度（バイドゥ）が自動運転国家AI開放・革新基盤、②阿里雲（アリババ・クラウド）はスマートシティAI基盤、③テンセントは医療イメージングAI基盤、④科大訊飛（アイフライテック）がスマート音声AI基盤の構築を担当するというものだ。いずれも技術力・資金力ともに世界的評価の高い中国の民間トップIT企業が主体となっている。

これらのプロジェクトは17年7月に国務院が発表した「次世代人工知能（AI）発展計画」にもとづき、党大会後に始動したプロジェクトである。同発展計画には30年に中国が、AI関連産業の育成によってイノベーション創出型かつ世界をリードする科学技術強国へ至るまでの工程が以下のように描かれている。

第1段階：20年にAI技術とその応用分野で世界水準に肩を並べ、AIのコアとなる産業の規模を1,500億元、その周辺産業の規模を1兆元とする。第2段階：25年に、医療、都市建設、農業、国防などの一部の分野で世界のトップとなり、産業規模を4,000億元、周辺産業の規模を5兆元とする。第3段階：30年にAI理論、技術及び応用分野で世界のリーダーとなり、経済強国としての基礎を固め、産業規模1兆元（約17兆円）、周辺産業の規模を10兆元（約170兆円）とする。

◆2つの100周年の目標を達成し、50年に経済・技術力で最強国を目指す

中国政府は第19回党大会で「新時代の中国の特色ある社会主義」の実現を掲げ、次の第20回党大会までの期間を「2つの100周年」の歴史的合流期間と位置づけた。中国共産党創設100周年の前年に当たる20年までに「小康社会（生活にややゆとりのある社会）」を完成させ、35年には経済力・科学技術力を大幅に向上させることで「社会主義現代化」を基本的に実現し、さらに建国100周年の翌年の50年には「社会主義現代化強国」として、世界トップレベルの総合力や国際的影響力を持つ国となるとしている。中国が最強国となるための鍵となる、次世代AI発展計画の今後の展開に注目したい。

【森山博之】